

電動バリカンは、忽ちの内に羊を丸裸にした。

花疲れ私そろそろ深海魚

才美

竹の子や産地の名札どんとつけ

ツル子

海へ流れ出た花筏が解れ、海底に沈んで行くことをイメージした句である。海底に漂う花びらを深海魚とした把握が良い。「そろそろ」との措辞も効いている。

竹の子が店頭にどかと置かれている。添えられた名札にはその産地名が大書されている。どんとつけが、竹の子の新鮮さを浮き出させている。

錠剤の転がる先や花筵

幸

若き日のままのユーモア春うらら

友子

花筵の上で常備薬を服用しようとした時の句であろうか。薬を携えても花見に出かける程、日本人にとって桜は魅惑的な存在である。

五ミリとて姿はたしか木の芽吹く

ツル子

敬愛されるご母堂との会話の中に、昔耳にした言葉があった。若いときからユーモアに溢れた人である。お二人の間には、いつものように相手を慮る、豊かな時間が流れているのであろう。ご夫君のことであれば、ご馳走様と言うほかない。

客観写生の極地の句である。五ミリとの数値の特定が良い。

何もかも忘れて今日のこの桜 守

懐に密書としたり花ひとひら 才美

懐に飛び込んで来た花びらを、自分宛の密書と受けとめたという句である。密書の内容はどうであったのか、想像をかき立てる。

羊の毛刈るバンジョーのリズムかな

守

春眠をむさぼる齡過ぎにけり 友子

千葉県富津市のマザー牧場を孫と訪れたときの句である。軽快なリズムに乗った

作者は、春眠を食るにも最適年齢があるという。確かにそうである。

異国語の-high-voiceや花あんず ヤエ子

徒党を組んで徘徊する異邦人には、へきへきするばかりである。

羨ましい境涯である。添削、起きてなほ寝てよし今日の暖かさ

空つぼの公園春の真昼どき

弘子

民衆の憲法論議木の芽張る

明美

添削、空つぼの公園春の真昼かな

添削、これまでの憲法論議木の芽張る

数值高し酒は少しよ弥生尽

ヤエ子

万歩計朧月夜で数見えず

眞壽

添削、検査後の酒にありしよ弥生尽

添削、かかげ見る朧夜の歩数計

スクランブル発進つづく建国日

明美

春深し雀の鉄砲有つたはず

弘子

日本の国防上の弱点を見透かしたように、隣国の空軍機は頻繁に国境に接近する。

添削、行く春や雀の鉄砲有つたはず

駅頭の客寄せポニー春の雲

明美

むべの花ごついお爺の育てをり

ヤエ子

駅の真近に乗馬クラブがある。客寄せのポニーの上に春の雲が浮かんでいる。時間がゆっくり流れる。

昔肴子等の笑顔や首飾り

邦子

八重樫己が重さに耐へきれず

友子

添削、昔肴子らの笑顔の首飾り

八重桜の重量感が良くでている。

春の航男子二人の乗馬服

明美

数珠玉に落花ただよふ墓参り

邦子

乗馬服に身を包んだ男子二人がフェリーの甲板に立ち、潮風に吹かれている。

添削、経読める僧の数珠玉飛花落花

子の遊ぶ丘をまあるく花の風

才美

母の背に花くたびれの匂ひかな 邦子  
母と二人して花見に出掛けた。花疲れを母の背中に感じ取ったのであろうか。

作者は子の楽し気に遊び回る姿に心の平安を感じ、それを「まあるく」と表現したのであろう。

寄港船なき栈橋や五月晴

幸

起きてよし寝てよし今日の暖かさ

添削、寄る船のなき栈橋や五月晴

花にらや医院へ続く細き道

ヤエ子

邦子

添削、花にらや医院に至る道細し

ひと一人さらふつもりの花の渦 才美

添削：ひと攫ひ現れさうな花の渦

桜愛で来し方想う日暮れ時 眞壽

添削：夕桜我が歳月の起伏かな

庭ごとの色あふれさせ春の風 弘子

添削：庭ごとの色あふれしめ春の風

飛花落花停まるベンツの花模様 友子

添削：飛花落花走るベンツの屋根赤し

老木が僅かに花を咲かす庭 眞壽

添削：老木の僅かな花をいとおしむ

胄飾り彫る山毛櫨肌無垢の美し 幸

添削：胄飾り山毛櫨の木肌の美しきかな

園児バス蝌蚪持つ袋のゆれてをり 幸

添削：園児バス袋の蝌蚪の揺れにけり

新緑の洗われてをりよべの雨 弘子

添削：新緑の洗ひ立てなりよべの雨

和三盆知らぬ己に春近し 眞壽

添削：初めての和三盆なり春近し

定期券売場の列や万愚節 ヤエ子

添削：万愚節定期売り場の列長し

喜びを笑ひに流す四月馬鹿 邦子

取り立てて言う程ではないけれども、何か佳きことがあったのか

桜咲く三春の滝に打たれたし ツル子

添削：頬打てるしぶき三春の桜かな

駿河路の夏柑たわわ艶のあり 幸

添削：駿河路の旅の途中や夏みかん

新緑の足場外れし白き家 ツル子

添削：新緑や足場のとれし白き家

桜葉降る三千世界を紅に染め 才美

添削：桜葉降る三千世界染めにけり

咲き揃う十二単に屈まりぬ 弘子

添削：咲き揃ふ十二単へ身を屈め

花散らし薄着こらえて酒を汲む 眞壽

添削：二人なほ薄着こらへし花見酒

(文責 代表 増田 守)